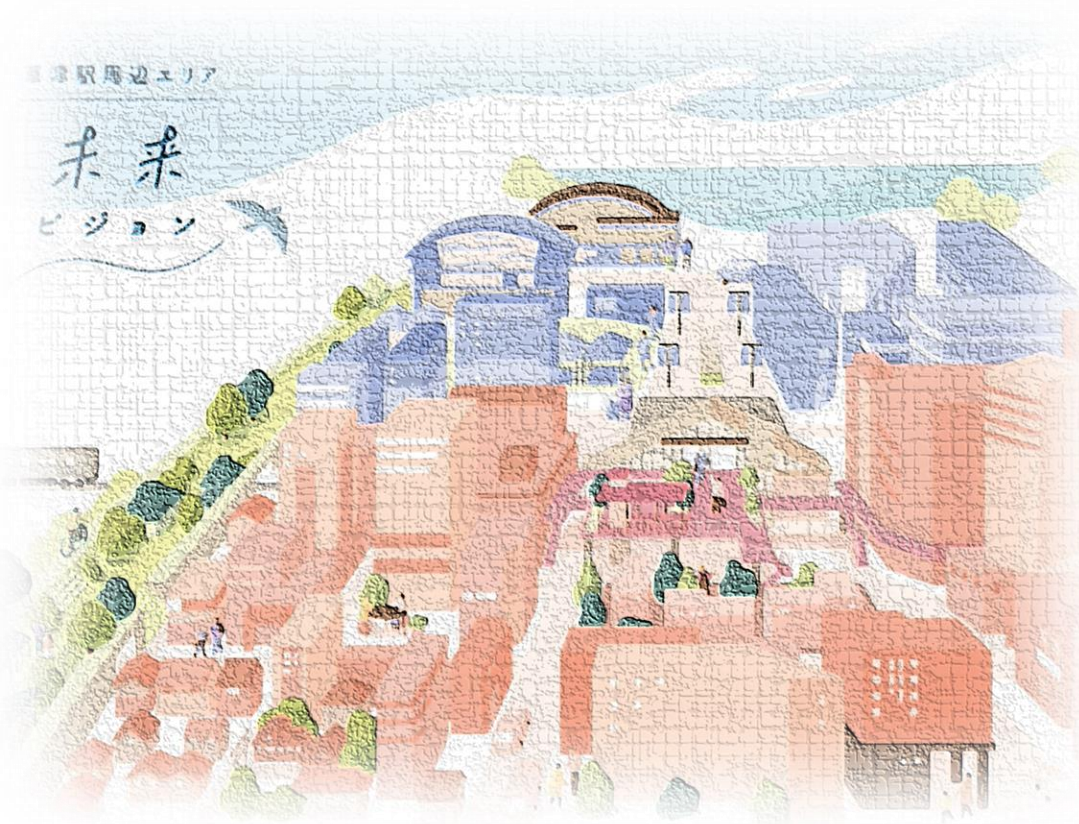


草津駅周辺ウォーカブル都市 検討業務に関する説明会



令和7年4月25日（金）

10：30から

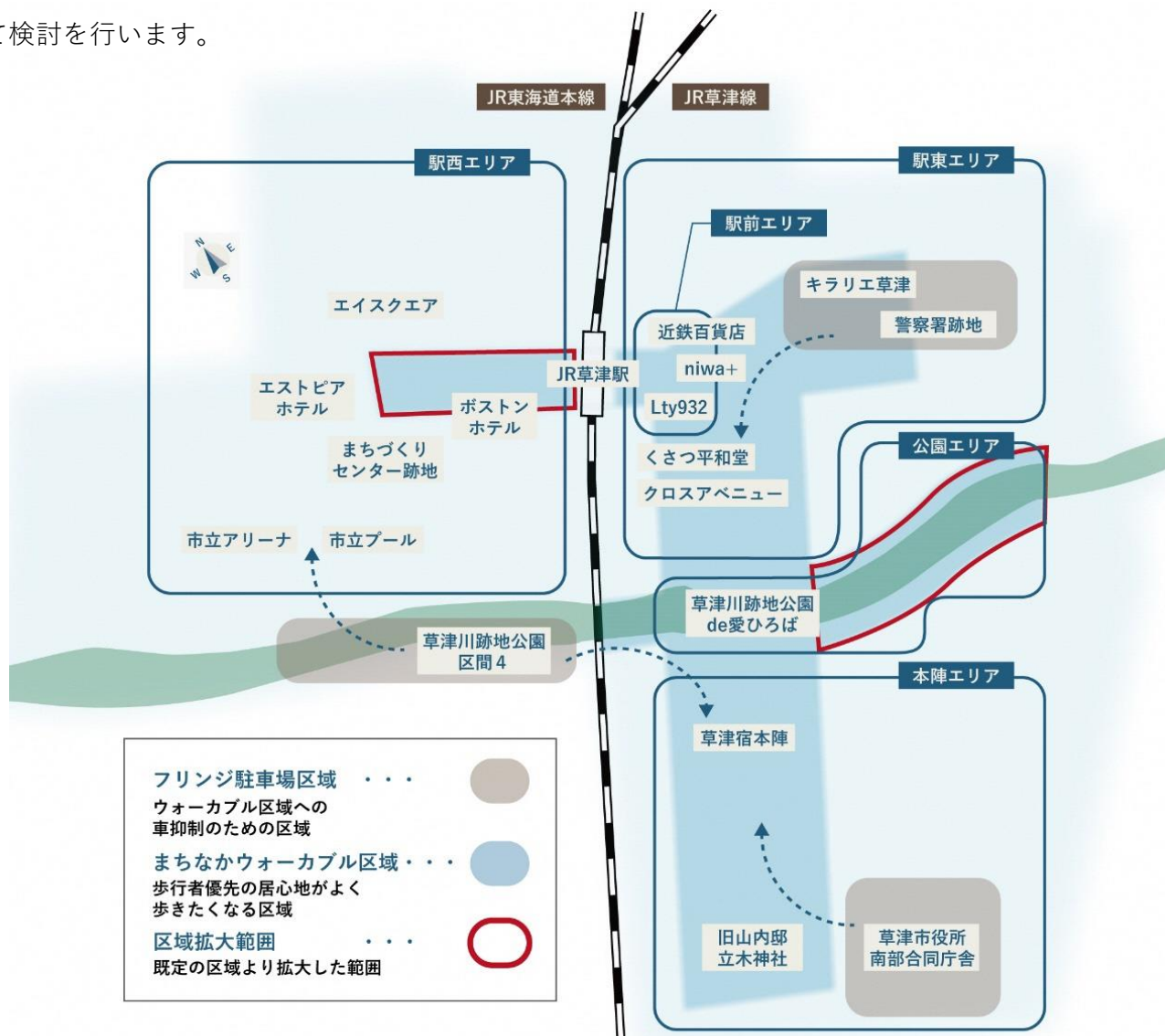
草津市役所8階大会議室

草津市都市地域戦略課

草津市が目指すウォーカブルな都市構造

■滞在快適性等向上区域の設定

まちなかウォーカブル区域内への車両の進入を抑制するため、少し離れた公共施設の駐車場などをフリンジ駐車場として活用することについて検討を行います。



出典：草津駅周辺エリア未来ビジョン 本編 p.4 0

7. とともに掲げる旗じるし

■めざす将来像

これまでの取組を振り返り「めざす将来像」を示します。
初めに、草津駅周辺が果たすべき役割を掲げ、その上で、草津市において実現したいまちの将来像を設定します。

将来像は、対象エリア全域を示すものとして、各エリアの個性に応じたコンセプトにより具体化します。

次に、将来像およびコンセプトを実現するため、各エリアに共通する方針と戦略を定め、各エリアのコンセプトに応じた具体的なアクションを実行します。アクションは、調査・分析から始まり、社会実験などのトライアンドエラーを繰り返して、将来像の実現をめざします。

<役割と将来像>

滋賀県南部地域の中核となる草津駅周辺エリアの果たすべき使命として、県民の暮らしと経済を牽引し、広域の発展を生み出す活力の源泉となることを役割として掲げています。

そして、「多様」な価値観を持ちあわせた人々が出会い、交流することで、新たな発見やアイデアを紡ぎだし、ともに実践する「共創」※と「挑戦」が循環する、「健やか」なまちで、「健やか」なひとの「暮らし」が実現するまちの姿を将来像として掲げています。

※<共創>

草津駅周辺では第6次草津市総合計画における、重要な視点である「協働」によって、新たな価値を創造する「共創」をめざします。



■ 5つのエリアとめざすコンセプト



3つの方針に基づく戦略を組合せることで具体的なアクションを実践し、各エリアのコンセプトを具現化します。

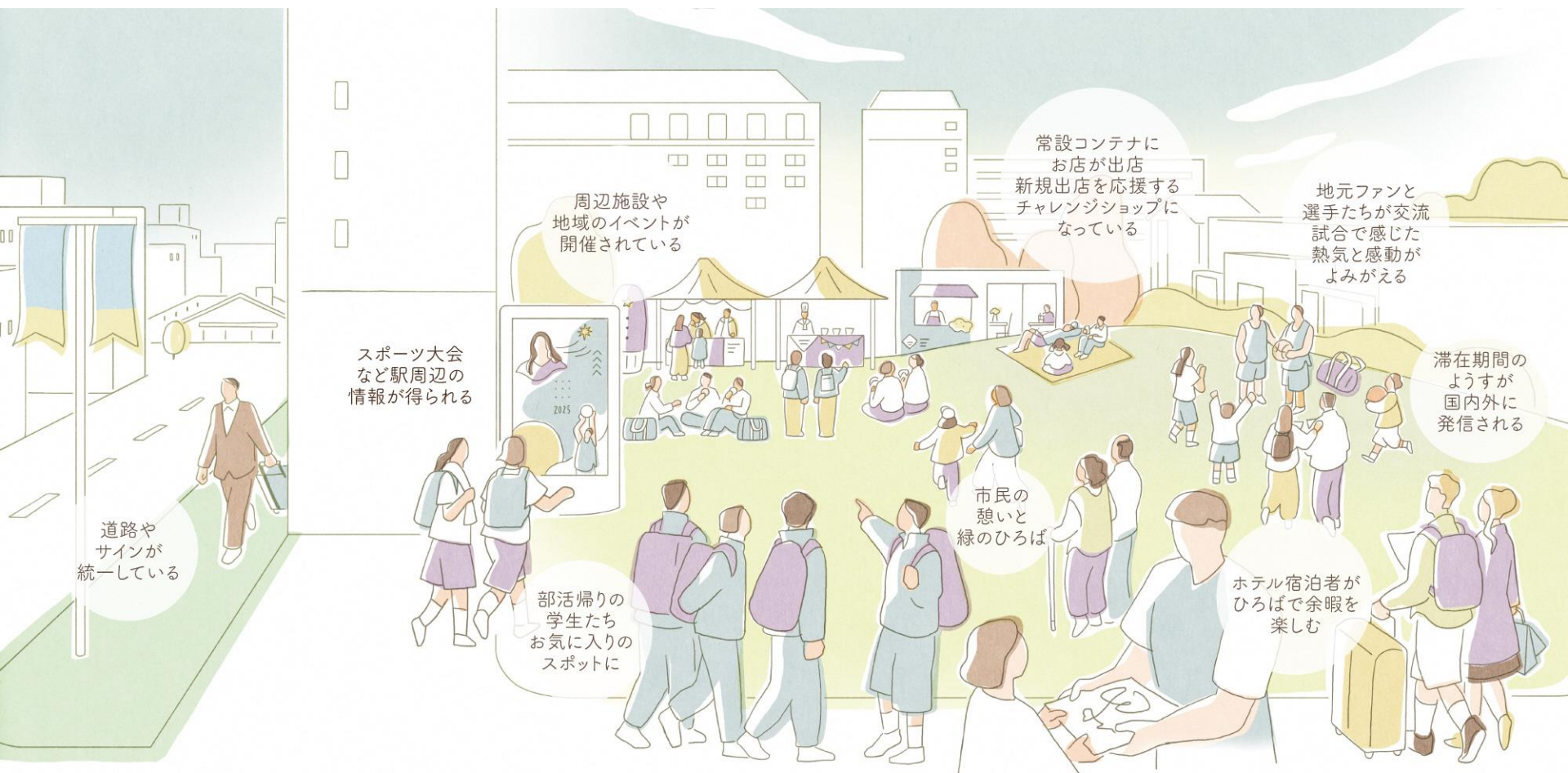
方針	戦略	アクション
「デザイン」	空間活用	公共空間などまちの空間を使いこなす
	都市緑化	緑の活動がまちにひろがる
「ブランディング」	情報共有	まちの情報が広く発信され共有できる
	シティプロモーション	イメージを共有し誇らしいまちを育てる
	施設連携	まちでつなぎ相乗効果を生み出す
「マネジメント」	市民共創	多様な関わりが新たな価値を創造する

対象エリアは、中心市街地活性化基本計画において位置づけられた、歴史街道軸、草津川跡地軸の2軸によって生まれる個性をもつ3つのエリアに、新しく2つの個性を持つエリア（「公園エリア」、「駅前エリア」）を追加し、未来ビジョンでは5つのエリアとしました。

それぞれの個性を活かしたコンセプトを設定し、右図に示す戦略を組み合わせ、具体的なアクションを実践することで、5つのエリアの個性を活かしたまちづくりをすすめます。

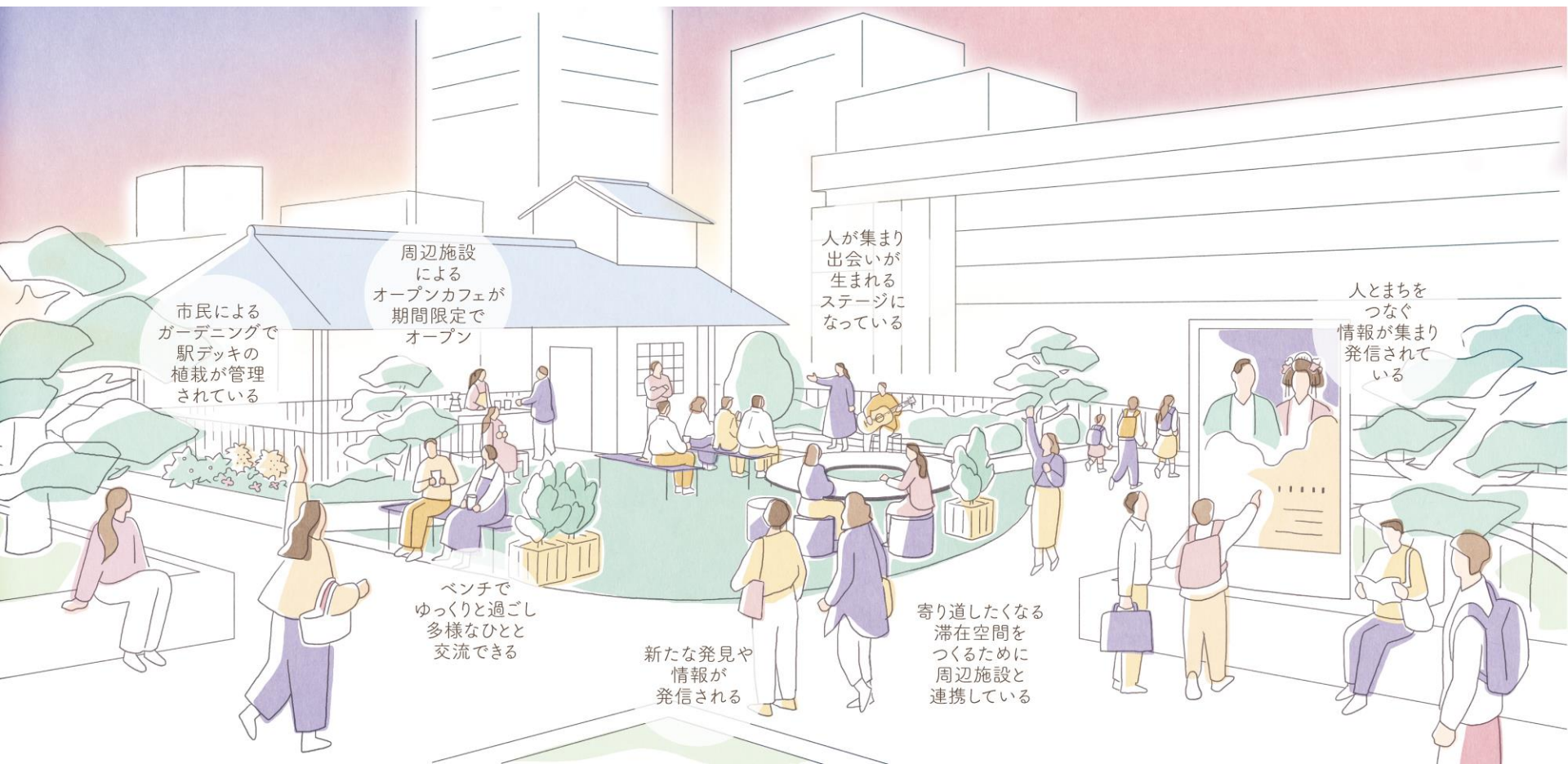
駅西エリア

熱気と感動あふれる暮らし彩る交流のまち



風景イメージ

市民交流の拠点であったまちづくりセンター跡地を、店舗やイベントで賑わう緑のひろばとして利用することによって、周辺のホテルに滞在される方や、スポーツ大会帰りの選手などの来街者をはじめ、地元の学生や住民などが気軽に立ち寄り、日常的な交流が育まれることで、ここにしかない賑わいの風景をイメージしています。



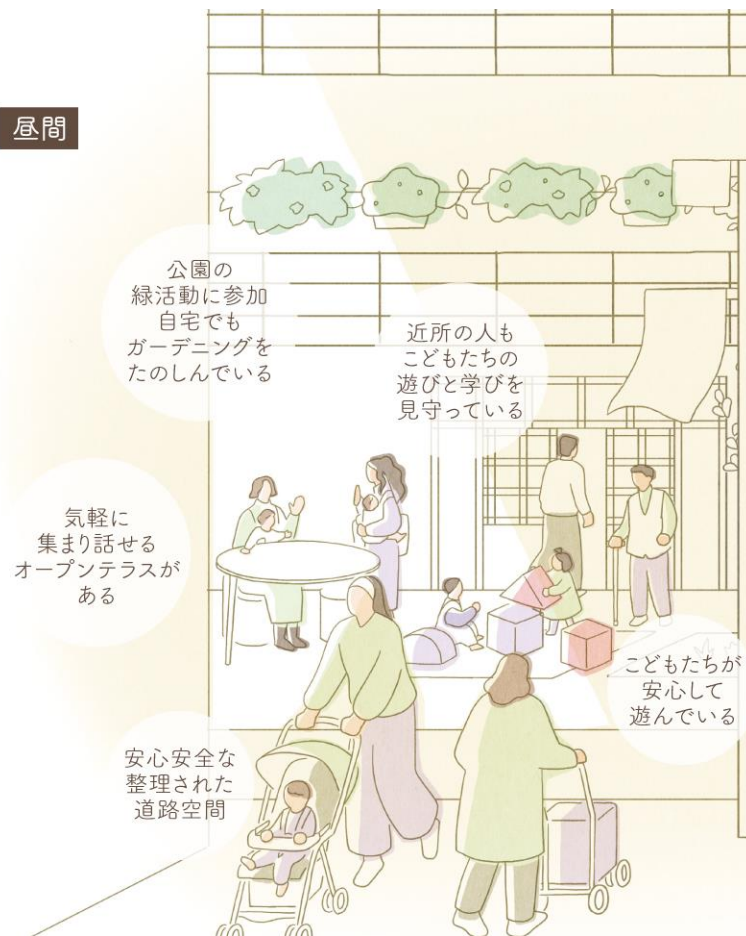
風景イメージ

ステージを使って市民が自分の得意を発表できたり、事業者が気軽にオープンカフェなどを出店できたり。それを囲むように、緑で区切られた空間にはベンチやテーブルが設えられ、これまで通り過ぎるだけだった場所に多くの人が立ち寄り、ゆったりとした滞在空間のなかで、ゆるやかな出会いと交流を育む風景をイメージしています。

駅東エリア

表情豊かないつものまちかど 次代を育む多様性のまち

昼間



夜間

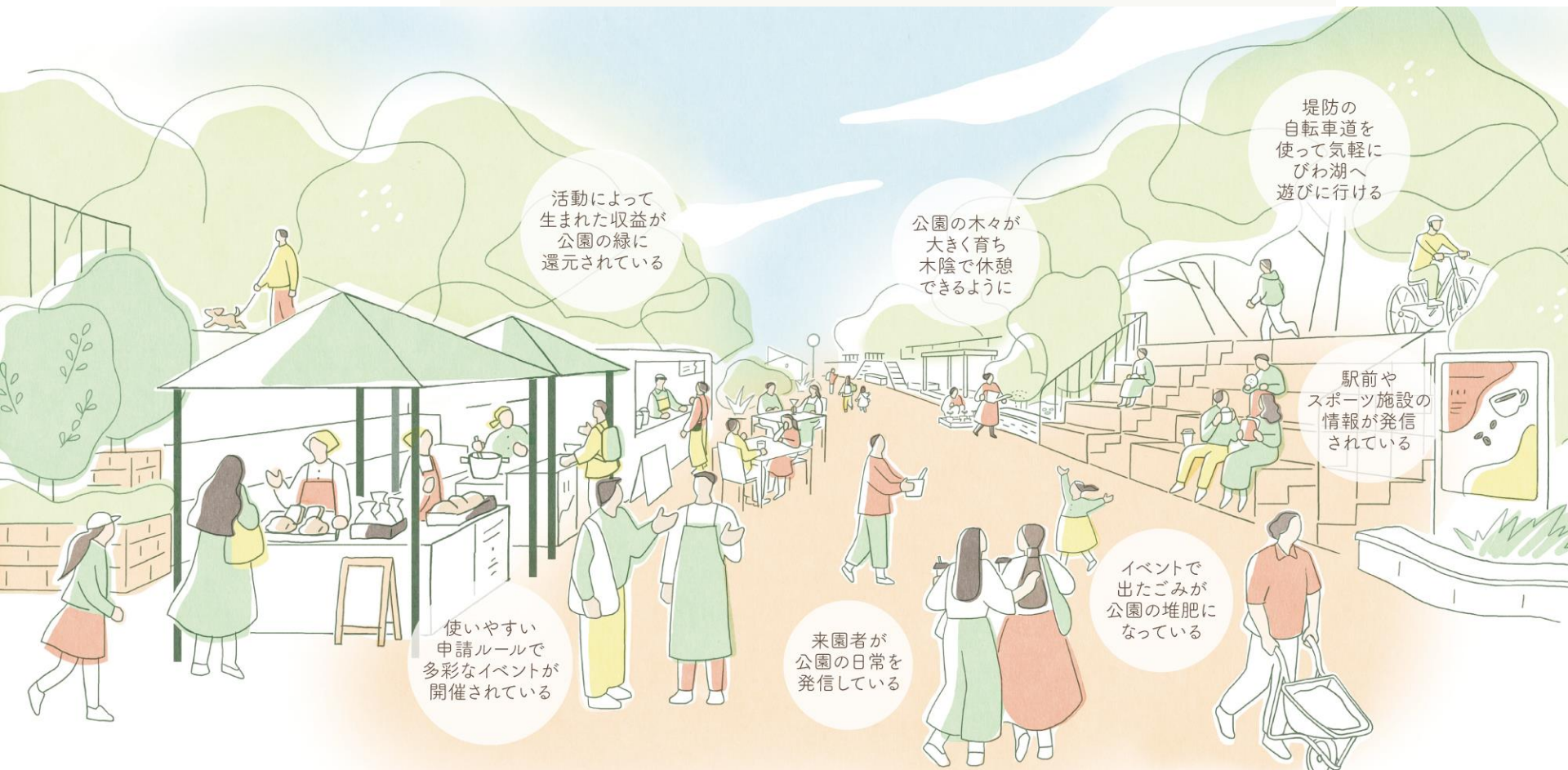


風景イメージ

市街地再開発で生まれたオープンスペースには、歩行空間と店舗をゆるやかにつなげ、ひとが滞在したくなるベンチなどが設置され、昼間は、子育て世帯の交流やこどもたちの遊び場として、夜間は、仕事帰りの人同士の憩いの空間として、昼と夜とで表情の異なるいつもの賑わいの風景をイメージしています。

公園エリア

使いこなしが緑とまちを守りつなぐ 共創と循環の場



風景イメージ

草津川跡地公園は、いつもイベントで賑わい、多くの人達が訪れ、マルシェなどでは出店者と来園者だけでなく、来園者同士で会話を楽しむ人もいれば、一人でのんびりと過ごす人、いつもと同じように公園を訪れ人もいる。そんな誰にとっても居心地の良い緑の空間をみんなで守り育てる風景をイメージしています。

本陣エリア

温故を受け継ぎ 新しきを創造する宿場町



お気に入りの
お店や場所が
街道や路地に
点在している

空き家など
古き良き
地域資源の
活用がすすむ

町屋の中庭が
美しく手入れ
されている

若者や
アーティストの
活動を支援する
場所がある

歴史や文化を
感じる
落ち着いた
まちなみ

来街者が
まちの風景を
発信している

かつてより続く
地域の催しに
周辺店舗が
参加する

時間・曜日を
限定した
交通規制による
ひと中心の
空間づくり

風景イメージ

車両の進入を規制した旧街道の空間で、昔から受け継がれてきた風景や歴史に想いを馳せる傍ら、新たに生まれる未来の息吹が感じられる旧山内邸を中心に、市内外から多様な人が集い、自分たちのお気に入りの場所や活動が広がっていく風景をイメージしています。

ウォーカブルな都市構造への推進イメージ（案）

	短期	中期	長期（理想像）
通過交通の許容	△なるべく抑制	×抑制	×抑制
生活交通の許容	○許容	△なるべく抑制	×極力抑制
取組方針	社会実験などにより、 車両抑制への理解を深める	車両抑制に向けて本格的なハード整備事業を展開する	住民合意のもと、街区整備などにより恒久的な車両抑制を行う。
具体的な施策の想定	社会実験（ソフト） ・交通規制の変更（期間限定） ・時間規制導入による道路空間活用など	基盤整備（ハード） ・フリンジ駐車場整備 ・駅デッキ再整備（東口ロータリー改修と一体）など	街区整備（ハード） ・宮町若竹線整備 ・区画整理、市街地再開発事業など

ウォーカブル都市に向けた取り組みイメージ

市が想定する現況の主な課題	今回の業務で知りたいこと	反映したいアウトプット
①草津三丁目国道1号交差点の混雑を避けるため、ウォーカブル区域を通り、国道大路へ向かう通過交通が多いのではないかな。	・立木神社側から侵入した車両はウォーカブル区域を通り、どこへ向かうのか。（区域内の主要な車両による目的地はどこか） ・生活交通と通過交通の分類、時間帯、天気、イベントの有無、平日、休日等それぞれの交通量など	・通過交通を排除するための効果的な社会実験（案）の検討 ・宮町若竹線整備による車両抑制の効果検証（通過交通を振り替えた際の生活交通需要の可視化）
②南草津・志津方面からウォーカブル区域を通り、駅西へ向かう通過交通があるのではないかな。		
③ウォーカブル区域内に、契約駐車場やマンション駐車場、荷下ろしなど、すぐに抑制できない生活交通があるのではないかな。	・駐車場出入口の配置や台数の把握 ・生活車両の多い時間帯の把握など	・生活交通と共存するウォーカブル社会実験の企画 ・駐車場抑制のための条例検討 ・フリンジ駐車場整備効果の検証
④駅への送迎や近隣商業施設に向かう車が、草津駅東口ロータリーに集中し、バス定時性を阻害しているのではないかな。	・草津駅東口ロータリーに進入する車の目的地、時間帯、天気、イベント、平日、休日等それぞれの交通量など	・デッキ再整備と連携した駅東口ロータリー周辺の道路整備の検討 ・警察跡地等でのフリンジ駐車場整備効果の検証
⑤対象エリア内の商業施設間を車両で再移動することにより、交通渋滞が発生しているのではないかな。	・対象エリア内の商業施設（エيسクエア、近鉄、LTY932等）を起点、終点とする車両の状況の可視化	・エリア内の回遊バス等の再移動抑制のための公共交通機能の検討
⑥プロスポーツ大会などのイベント開催時にエイスクエア周辺が混雑しているのではないかな。	・イベント開催時の駅西エリアの交通混雑状況の可視化 ・エイスクエア駐車場の平均滞在時間の推移（店舗協力要）など	・草津川跡地（区間4）のフリンジ駐車場整備の必要性検証

※上表は市のイメージであり、参加者の提案を妨げたり限定するものではない。

課題①

草津三丁目国道1号交差点の混雑を避けるため、ウォークアブル区域を通り、国道大路へ向かう通過交通が多いのではないか。

課題②

南草津・志津方面からウォークアブル区域を通り、駅西へ向かう通過交通があるのではないか。

課題③

ウォークアブル区域内に、契約駐車場やマンション駐車場、荷下ろしなど、すぐに抑制できない生活交通があるのではないか。

知りたいこと

- ・立木神社側から侵入した車両はウォークアブル区域を通り、どこへ向かうのか。（区域内の主要な車両による目的地はどこか）
- ・生活交通と通過交通の分類、時間帯、天気、イベントの有無、平日、休日等それぞれの交通量など
- ・駐車場出入口の配置や台数の把握
- ・生活車両の多い時間帯の把握など

アウトプット

- ・通過交通を排除するための効果的な社会実験（案）の検討
- ・宮町若竹線整備による車両抑制の効果検証（通過交通を振り替えた際の生活交通需要の可視化）
- ・生活交通と共存するウォークアブル社会実験の企画
- ・駐車場抑制のための条例検討
- ・フリンジ駐車場整備効果の検証

草津三丁目交差点

混雑

混雑

駅から500m

課題④

駅への送迎や近隣商業施設に向かう車が、草津駅東口ロータリーに集中し、バス定時性を阻害しているのではないか。

知りたいこと

・草津駅東口ロータリーに進入する車の目的地、時間帯、天気、イベント、平日、休日等それぞれの交通量など



アウトプット

- ・デッキ再整備と連携した駅東口ロータリー周辺の道路整備の検討
- ・警察跡地等でのフリッジ駐車場整備効果の検証

課題⑤

対象エリア内の商業施設間を車両で再移動することにより、交通渋滞が発生しているのではないか。

課題⑥

プロスポーツ大会などのイベント開催時にエスクエア周辺が混雑しているのではないか。

エスクエアの駐車場を利用してイベント等に参加することにより、周辺道路が混雑？

混雑

大型イベント

草津川跡地区間4を駐車場として整備することで、周辺の駐車場不足を解消できるのでは？

地下道（自動車用）

混雑

混雑

知りたいこと

- ・対象エリア内の商業施設（エスクエア、近鉄、LTY932等）を起点、終点とする車両の状況の可視化
- ・イベント開催時の駅西エリアの交通混雑状況の可視化
- ・エスクエア駐車場の平均滞在時間の推移（店舗協力要）など

アウトプット

- ・エリア内の回遊バス等の再移動抑制のための公共交通機能の検討
- ・草津川跡地（区間4）のフリンジ駐車場整備の必要性検証